

日時：2018年8月25日(土) 13:30-16:30 場所：神奈川県横浜キャンパス16号館 セレストホール

◆主催：神奈川県大規模災害対策研究プロジェクト 総合司会：山田美智子(ひらつか防災まちづくりの会代表)

◆シンポジウム参加者：114名(含む講師) 記録：紅林敏行(防災塾だるま) (敬称略)



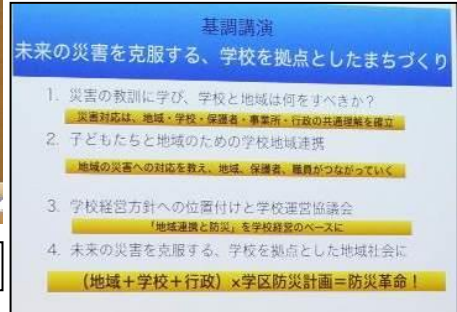
荏本教授(挨拶)



左(講演会場の模様)



右(鷲山元校長(基調講演))



I. 講演：『未来の災害を克服する、学校を拠点としたまちづくり』(参考:右上の写真)

報告：元横浜市立長津田小学校校長 防災士 鷲山龍太郎氏

災害から子ども達の命を守るには学校だけでは不十分！北綱島小、太尾小、長津田小で『学校と地域が連携した地域防災活動』を上げた。その活動の基本的な理念と内容・方法論について、これまでの各校での活動の経緯と写真等をまじえながら解り易く講演。

◆地域と学校が連携すれば、町づくりと防災に貢献できる。『地域の防災計画』は学校を中心に展開するとかなり強くなる。

《地域防災の課題(弱み)》を解決できる！

- 災害リスクへの共通の理解
○老若男女への避難などの初期対応への共通の理解
○地域・学校・保護者・行政の協議による計画決定
○役割分担と行動計画の明確化

地域連携と安全防災教育に学校が舵を切ること！

◆自分たちで考えたことは自分達の出来ることになる！みんなで考え、話し合い、決めていく。

◆北綱島小、太尾小、長津田小では、地域・保護者・職員と共に考えてできた取組を今も発展。
北綱島小:災害リスクへの学区一斉の連携対応等
太尾小学:児童・保護者が参加しての各自治会一斉初期対応訓練等
長津田小:各自治会が[地区防災計画]立案に取組む等

◆提案『拡大地域防災拠点運営委員会(仮称)』『学区防災計画』を運営する仕組みを上げる。

学校・PTA・拠点でない学校・事業所・諸機関・地域の医療・全地域代表と防災担当/マツヨリ理事長と防災担当・消防団・消防・行政・有識者で構成

◆『学校を拠点とした地域防災』の活動の成果と未来への期待

- ①地域防災が、児童・保護者層と繋がることが出来た。
②火災などの地域災害リスクへの児童・保護者層への教育。年を重ねれば地域住民の多くに浸透が期待出来る。
③学校を拠点とした、地域社会の「再構築」「活性化」が進んだ。
④各自治会の「地域防災計画」への布石となる。

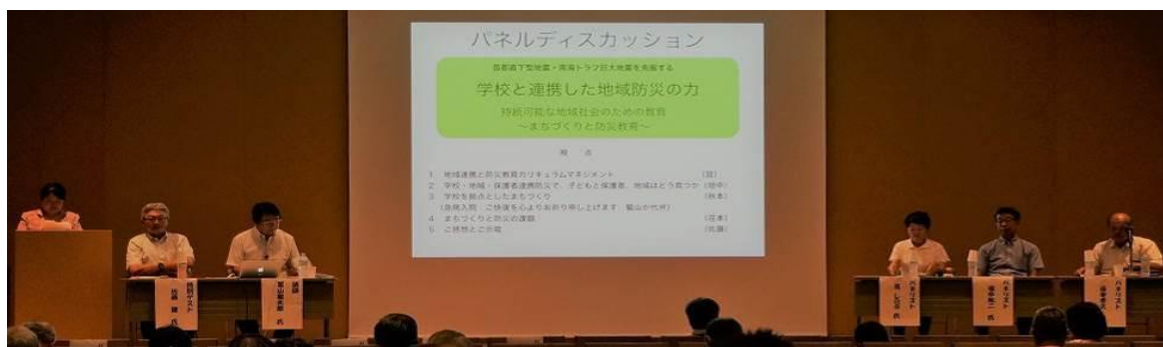
◆鷲山さんのHP

<本日の資料一式参照HPからダウンロード可能>
未来防災HP http://mirai-bousai.net/

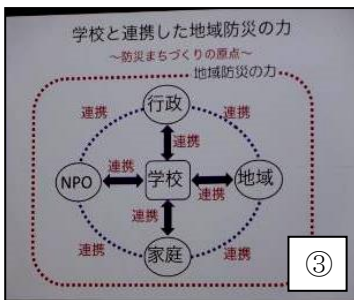
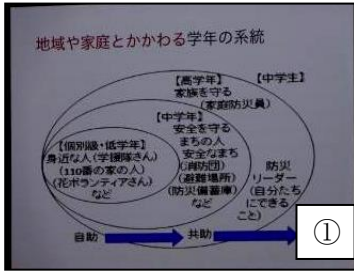
II. パネルディスカッション

パネラー：横浜市立北綱島小学校校長 昆しのぶ氏
北綱島小地域防災拠点運営委員会副会長 垣中祐二氏
元横浜市立長津田小学校校長 防災士 鷲山龍太郎氏
(欠席:太尾小地域防災拠点運営委員会会長 秋本健一氏(右の写真))
神奈川県工学部教授 荏本孝久氏

特別ゲスト
東北大学災害科学国際研究所教授 佐藤健氏



左から
山田氏
佐藤氏
鷲山氏
昆氏
垣中氏
荏本氏



これまでの家庭や地域を巻き込んだ防災訓練、ふるさと祭り等の取り組みについて写真等をまじえて報告。

昆氏・『**学校運営協議会**』を基盤に、PTA・各協議会・地域防災拠点運営委員会・学校の参加により、防災教育の方針を協議。これに基づいて『きたつな防災プログラム』・『きたつな防災マニュアル』などの共通理解を確立して取り組む。《PDCA》

○**地域防災拠点訓練には児童が参加**。6年生はおとなと一緒に防災訓練に取り組む。1～6学年間で綱島探検、綱島の歴史、綱島の地震等に取り組む、**子ども達がいらないうちに安全防災知識を身につけ、地域の防災リーダーとして卒業**。低学年では、例えば花ボウリアの方が避難所で炊き出しをしてくれる人だと知る。(左写真①)

○**子供たちは、自分達で考え、自分達で行動できるようになっている。先生方も自主性が高まり、保護者も家庭のことも含め考えるようになってくる。**

垣中氏・**学校のことを良く理解している人たちと一緒に取り組んでいる**。先生からの依頼により簡易トビ組立等の講習を実施。地域防災拠点訓練には子どもも保護者も意識を持って参加するようになった。子どもと一緒に親が学んでいる。**子どもの取り組み姿勢が素晴らしく、既に親を越えている**。(左写真②地域防災拠点防災訓練)

○**地域の一般の人が拠点にあつまり、その人たちで資機材等を操作出来る様に訓練**。

荏本氏・**学校が中心になって地域で防災に取り組んでいる方々と連携し行動していく事を形作っていく事が、防災力の強化に繋がっていくと感じた**。(左写真③)

○最近では社会構造が大きく変わってきている。積み重ねてきた一元的な常識では対応できない。そのような状態にある。**地域・学校・家族が防災・減災に各々別々に対応してきたが、それぞれの行動を集合し、重ね合わせていく事が必要**になった。

佐藤氏・本日の会話にあった北綱島小、太尾小の先駆的な取り組み。大きな蓄積が出来ていて素晴らしい。北綱島小では具体的な子供たちの様子も見せてもらっている。**子ども達が大きくなって地域で防災・減災・まちづくりに活動して出来る方々になってくれる。私もこれからの取り組みを応援していく。間違っていない**。

Ⅲ. 質疑応答

参加者と活発な意見交換 (主な質疑応答を以下に記す。)



◆「**学校の先生は多忙で、土日の防災訓練の対応は難しいのでは?**」

昆氏・授業のある日に授業のひとつとして子ども達が防災訓練に取り組む。**授業としてやると保護者の方にも参観したく参加してくる**。防災拠点としてやるべきことを保護者が取り組んでくれる新たな防災訓練にするのではなく、子ども達の授業の日を実施するだけ。**高いハードルではない**。子どもと一緒に親が来れば、保護者も啓蒙される。また、**地域の方々がいろいろな面で学校の教育活動に力をかしてくれれば助かる**。

鷲山氏・**職員から授業の中で取り組める具体案が提案され採用した実績もある**。太尾小では、**1年目は職員から反発があった。2年目はチームになっていった**。地域の自治会の意識も2年後には大きくなっていった。



◆「**地域と学校の連携:「最初の取っ掛かりをどの様にして作っていったのか?」**」

鷲山氏・東日本大震災が私の切っ掛け。職員に提案し、話し合いそして学校協議会に提案。

垣中氏・当初は鷲山さんとの意見対立があった。**地域防災拠点の防災訓練がマソ初化していたのも事実**。幸いなことに会長が危機意識を持っていた。元校長の鷲山さんが走り、私たちは応援。**学区の大きな自治会も、小さい自治会も、学校が頑張るならば、頑張るとなった。比較的スムーズに体制が出来た。子ども達のために労を惜しまない人たちが集まっていった**。



鷲山氏・各自治会の防災訓練も**私の資料を上手く活用して防災は枠組みを作り、枠組みの中で、皆で考えていった**。凄いい力になっていった。(左写真④お父さんの会・救出救援隊)



◆「**行政は北綱島小等の実績をなぜに横展開していないのか?**」

港北区総務課課長(左写真⑤)・港北区28の地域防災拠点委員会に展開し、情報共有している。港北区の人口は約35万人。避難出来る人数は1地域防災拠点あたり12,500人となるが実態は最大1,000人。**自宅に住める人は地域防災拠点に避難しない**。拠点訓練に参加していない方々、多くの関心を持っていない方々にどう伝えていくかに苦慮。**『学区防災計画』の考え方は、市/区の防災計画とも矛盾していない**。

◆最後に(鷲山氏から)子供たちから沢山学んだ!北綱島小での取り組み当初、子供達から「次からは自分達で考えた訓練をしていきたい」との反省の声があがり、PDCAに反映。まずはひとりで考え、次はチームで考え、そして学校で考える。皆でワイワイやる。**教育の場で子供たちが変わっていくのがみられてうれしい。職員も保護者もうれしい**。横展開の件、可能であれば何回か同様のツボギをやって地域と学校の連携を発展させていきたい。